

***東洋大学社会学部 2013 年度「社会調査および実習」①
「関東在住の釜石ゆかりの方々への東日本大震災に関する調査」報告書より**

■調査の概要

1. 調査目的

本報告書の「関東在住の釜石ゆかりの方々への東日本大震災に関する調査」は、東日本大震災の被災地の出身者で、震災発生時に関東圏に住んでいた方々の、震災当時およびその後の行動や考え、現在の意識などを知ることがを目的としたものである。被災地外在住だが被災地に強いつながりを持つ出身者は、被災地の内と外の狭間を経験していると考えられる。調査を通して、出郷者の故郷への関わり方や、被災地外からできる支援などについて考えた。

具体的には、岩手県釜石市に「成人前に居住または通学したことがある方で、現在関東にお住まいの方」をもって「釜石ゆかりの方々」とし、聞き取り調査（インタビュー）と質問紙調査（アンケート）を実施した。質問紙調査では、多くの方に共通する、行動や思いの全体像を描くことを目的とし、聞き取り調査では、活発に行動をとられた方を中心に話を伺い、行動や思いの詳細を記録した。

これらの 2 種の調査データに基づいて、調査に参加した学生は、各々のテーマに沿って分析を行い、レポートを執筆した。

2. 調査対象・調査方法

【聞き取り調査】

30 代から 70 代までの方々 9 名（男性 4 名、女性 5 名）に行った。いずれも釜石市内の高校を卒業後、10 代または 20 代の時に関東への上京経験を持ち、現在も関東在住である。釜石市のふるさと会である「釜石はまゆり会」および釜石高校同窓会関東支部のメンバーの紹介を得て、震災後、釜石に通ったり、何らかの支援活動を行ったりしていた方々に、調査に協力していただいた。

各調査協力者（被調査者）に対して、4-5 名の学生が、大学構内、喫茶店・レストラン、協力者の職場などで 1 時間から 2 時間の聞き取りを行った。進行係と記録係とに役割分担をし、質問リストを用いて半構造化インタビューを行った。調査時には「説明文」を協力者に渡し、了解を得て IC レコーダーに聞き取りの内容を録音した。

その後、レコーダーの内容を文字化する作業（テープ起こし）を行い、そこからインタビュー要約を作成した。インタビュー要約は、初稿を協力者本人に郵送し、修正・削除部分の指示をもらい、最終原稿を作成した。実名での公開可否、要約からの引用可否についても、本人の確認を経た。

【質問紙調査】

岩手県釜石市に「成人前に居住または通学したことがある方で、現在関東にお住まいの方」を対象とし、岩手県立釜石高校同窓会関東支部と、釜石はまゆり会役員有志の協力を得て、以下の 2 つの方法による広義のスノーボール（雪だるま式）サンプリングで調査協力を依頼した。

①2013 年 10 月 6 日開催の岩手県立釜石高等学校同窓会関東支部総会の出席者（113 名）

に質問紙（アンケート用紙）と返信用封筒を配布し、郵送にて回収した。

②釜石高校同窓会関東支部の学年幹事の方々や、釜石はまゆり会の役員有志の方々から、

条件に合致する釜石出身者の方々へ、調査協力依頼文をメールで転送してもらった。依頼文には調査のサイトの URL を記載し、Google Drive を利用したウェブアンケートへの回答を依頼した。メール受信者自身にも、メール・Facebook 等での情報拡散を依頼した。

①と②の質問文・選択肢は全く同じである。なお、同じ方が①と②の両方で回答しないように、注意喚起した。①は 24 名、②は 106 名、計 130 名からの回答があった。調査対象に該当しなかった方を除いた有効回答は 122 名であった。内訳は、性別は男性 75 名、女性 47 名、年齢は 20-30 代 24 名、40-50 代 61 名、60 代以上 33 名、年齢無回答 4 名である。

3. 調査時期

釜石高校同窓会関東支部への質問紙調査協力依頼	2013 年 4 月
聞き取り調査協力者への依頼	2013 年 4～5 月
聞き取り調査（インタビュー）実施	2013 年 6 月
釜石市への訪問（学生有志）	2013 年 9 月
質問紙調査実施（ウェブでの回答）	2013 年 10 月 3 日～10 月 29 日
質問紙調査実施（紙での回答）	2013 年 10 月 6 日～10 月 21 日
インタビュー要約作成	2013 年 9～11 月
質問紙調査の集計および結果まとめ作成	2013 年 10 月～2014 年 1 月
調査協力者によるインタビュー要約の確認	2013 年 12 月～2014 年 1 月
各学生の分析レポート作成	2013 年 12 月～2014 年 1 月
調査報告書発刊	2014 年 3 月

4. 調査内容

【聞き取り調査】

調査協力者から特に引き出したい内容を考え、それを核に、質問項目を班ごとに作成した。震災当日やその後の動き、震災後の釜石への関わり方や支援活動、震災前後の釜石への気持ちの変化、これからの釜石への考え、関東にいて感じること・関東からできることなどを質問した班が多い。職業・家族など基本的な属性もたずねた。

【質問紙調査】

テーマごとに班にわかれて必要な質問を練り、調査票全体の構成を調整し、以下の内容を盛り込んだ質問紙を作成した。プリテストでは、聞き取り調査協力者にも意見を仰いだ。

- 〈問 1・問 2〉釜石・大槌との連絡
- 〈問 3〉釜石・大槌への訪問
- 〈問 4〉震災に関連してとった行動・支援活動
- 〈問 5・問 6〉震災をきっかけとした交流、支援グループでの活動
- 〈問 7〉関東にいて感じるジレンマ
- 〈問 8〉震災前後の思いの変化
- 〈問 9・問 10〉釜石の復興について
- 〈問 11・問 12〉現地に必要な支援、関東からできること
- 〈問 13～問 22〉調査協力者の属性

関東在住の釜石ゆかりの方々への東日本大震災に関するアンケート

ご協力をお願い

東日本大震災の被害に遭われた方々、そしてご家族や関係者の皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

大震災から 2 年半が経ちました。復興は長い時間がかかるプロセスです。しかし、残念ながら被災地外からの関心は持続するとは限りません。そうした状況下で、関東圏在住の釜石にゆかりのある方々（今回はご出身者や通学経験者）にご意見を伺うことで、「被災地」と「被災地外」をつなぐ視点が得られるのではないかと考えました。

担当教員の西野は、震災前の 2006 年から、東京大学「希望学」プロジェクトの調査で、釜石に通っており、また釜石高校同窓会関東支部の皆様にもお世話になってまいりました。そのご縁で、今年度私たちのクラスは、釜石ゆかりの方々へ聞き取り調査をお願いし、また有志で釜石を訪問しました。そして、このたびこのアンケート調査を企画した次第です。

お忙しいところを恐れ入りますが、趣旨をおくみとりいただき、ぜひご協力をお願い申し上げます。

2013 年 10 月

東洋大学社会学部

「社会調査および実習」西野淑美クラス一同

*本調査は、東洋大学社会学部の「社会調査および実習」の授業の一環として実施いたします。アンケートは無記名で記入していただき、回答していただいた情報はすべて統計的に処理いたしますので、個人情報が入ることはございません。

同封の返信用封筒に入れて、10月21日(月)までに、ご投函をお願いします。

記入にあたってのお願い

- ・特記がない限り、選択肢の中からあてはまるもの 1 つに○をつけてください。() には数字等をご記入ください。
- ・答えにくい質問がございましたら、ご回答いただかなくて結構です。また無回答の欄があってもアンケート自体は無効になりませんので、ご安心してご返送ください。

本件連絡先 〒112-8606 文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部 准教授 西野淑美
Tel/Fax 03-3945-7453 E-mail: y_nishino@toyo.jp

I まず、震災後のあなたの行動について、お聞きします。

問 1 あなたは、東日本大震災後 3 か月以内に、釜石・大槌（他地域出身の方はご自分の出身地も含めてください、以下同様）在住の方と、連絡をとりましたか。

1. はい → () 人くらいと連絡をとった
2. いいえ → 問 2 にお進みください

問 1-1 震災後 3 か月以内に、釜石・大槌在住の方との連絡手段で最も利用しやすかったものはなんですか。○を 1 つつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1. SNS (facebook、Twitter、mixi など) | 5. 電話 |
| 2. 携帯でのメール | 6. 郵便 |
| 3. パソコンでのメール | 7. 人伝えで伝言 |
| 4. ウェブ掲示板・ブログ | 8. その他(具体的に:) |

問 2 震災前は、釜石・大槌の親族や友人と最もよく利用していた連絡手段はなんでしたか。○を 1 つつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| 1. SNS (facebook、Twitter、mixi など) | 5. 電話 |
| 2. 携帯でのメール | 6. 郵便 |
| 3. パソコンでのメール | 7. 連絡は取っていなかった |
| 4. ウェブ掲示板・ブログ | 8. その他(具体的に:) |

問 3 震災後、釜石または大槌を訪れたことはありますか。

1. はい → 初めて訪れたのは () 年 () 月ごろ
2. いいえ → 問 4 にお進みください

問 3-1 震災から現在まで、釜石・大槌を何回訪れましたか。それぞれの時期について、回数をご記入ください。訪れていない場合は、0 回とご記入ください。

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1. 震災発生～2011 年 9 月 | () 回) |
| 2. 2011 年 10 月～2012 年 9 月 | () 回) |
| 3. 2012 年 10 月～現在 | () 回) |

II 震災に関連した活動についてお聞きします。

問 4 震災後、それぞれの時期に、以下の行動をとりましたか。A から F についてそれぞれ、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

	①震災発生 ↓ 2011年9月	②2011年10月 ↓ 2012年9月	③2012年10月 ↓ 現在	④どの時期 も行わな かった
A. 普段連絡しない人と、震災関連で連絡を取った	1	2	3	4
B. 釜石・大槌に届ける義援金に、寄付をした	1	2	3	4
C. 釜石・大槌の家族や友人に、会いに行った	1	2	3	4
D. 釜石・大槌の情報を集め、知人などに発信した	1	2	3	4
E. 関東で、被災地支援の活動をした	1	2	3	4
F. 被災地に行き、家族・親戚以外への支援活動をした	1	2	3	4

問 4-1 D から F のいずれかの行動をされた方、またその他震災に関連する行動をとられた方は、具体的な活動内容をお教えてください。

問 4-2 A から F のいずれかで④に○がついた方は、それらの行動をとらなかった（とれなかった）理由があればお教えてください。

問8 あなたは次のような思いを持ったことがありますか。

A. 釜石・大槌にUターンしたい

- | | | |
|-----|-------------|-------------|
| 震災前 | 1. 思っていた | 2. 思っていなかった |
| 震災後 | 1. 思ったことがある | 2. 思ったことはない |

B. 関東で、釜石・大槌に関わる会に参加したい

- | | | | |
|-----|--------------|--------------------------|-------------------|
| 震災前 | 1. 実際に参加していた | 2. 参加していなかったが、したいと思っていた | 3. 参加したいと思っていなかった |
| 震災後 | 1. 実際に参加している | 2. 参加していないが、したいと思ったことがある | 3. 参加したいと思ったことはない |

C. 釜石・大槌に地元愛を感じる

- | | | |
|-----|-------------|-------------|
| 震災前 | 1. 感じていた | 2. 感じていなかった |
| 震災後 | 1. 感じたことがある | 2. 感じたことはない |

問9 釜石市の復興は進んでいると思いますか(大槌町や近隣地域は含めないでください)。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 3. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 4. そう思わない |

問10 釜石市の今後について、不安に思うことは次のうちどれですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 今後釜石が産業を維持できるか
2. また大地震が起こらないか
3. 復興がきちんと進むか
4. 住宅の確保ができるか
5. 以前の地域コミュニティを再構築できるか
6. 他地域への転出者が増えないか
7. 東日本大震災そのものが風化されないか
8. 不安は特にない
9. その他(具体的に)

問 11 現在、釜石・大槌に必要なと思うボランティアや支援は何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1. 被災者への訪問、話し相手 | 6. 義援金の寄付 |
| 2. 子供たちの遊びや勉強の相手 | 7. 物資の支援（具体的に ） |
| 3. 医療、介護の支援 | 8. 現在はいない |
| 4. 法律など専門の相談 | 9. その他（具体的に ） |
| 5. 現地での祭り・イベントの運営 | |

問 12 関東に住む人が、釜石・大槌のためにできることは何だと思えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------------------------|
| 1. 現地へボランティアに行く | 6. 釜石・大槌の商品を買う |
| 2. 現地に観光に行く | 7. 釜石・大槌の状況に興味を持ち続ける |
| 3. 義援金を寄付する | 8. 特にできることはない |
| 4. 物資の支援をする | 9. その他（具体的に ） |
| 5. 復興支援のイベントに参加する | |

IV 最後に、現在の生活、および釜石とのつながりについてお聞きします。

※支援活動に参加しやすい条件などを知りたいため、立ち入った質問がありますが、ご協力をお願いいたします。

問 13 性別と年齢をお教え下さい。

- | | | |
|-------|-------|------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | () 歳 |
|-------|-------|------------------|

問 14 あなたは現在結婚していますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

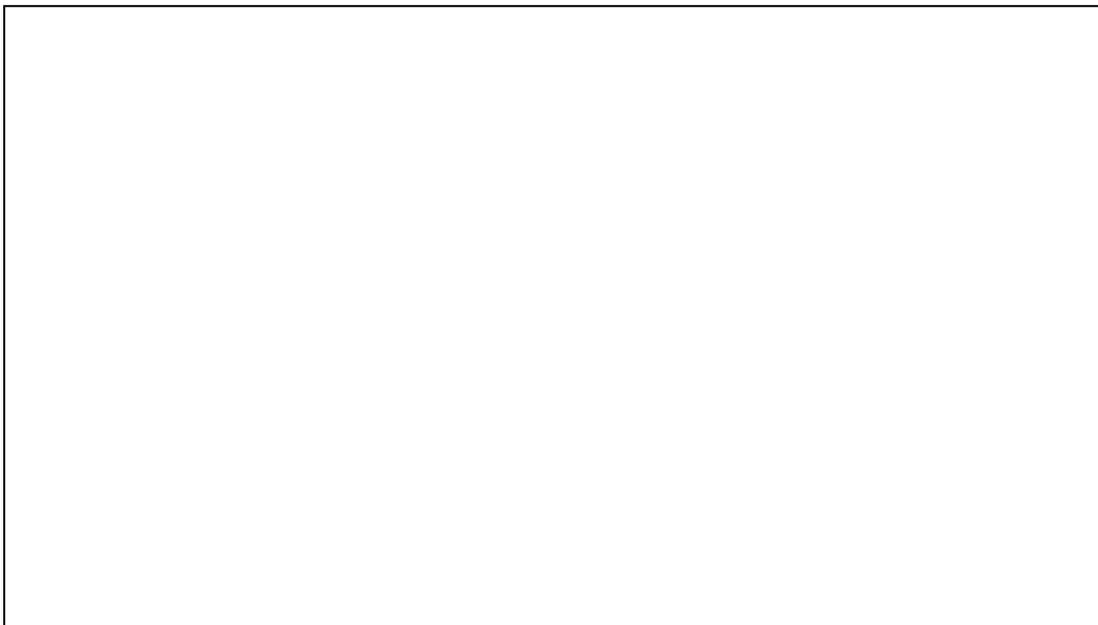
問 15 小学生以下のお子さんはいますか。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問 16 現在は働いていますか。

- | | | |
|-------|--------|----------------|
| 1. はい | 2. いいえ | →問 17 へお進みください |
|-------|--------|----------------|

その他、関東から見た釜石についてのご意見や、釜石の被災・復興へのご意見がありましたら、ぜひご自由にお書きください。



ご協力を誠にありがとうございました。

調査結果は2014年3月に報告書にまとめ、釜石高校同窓会関東支部や釜石はまゆり会にお届けいたします。また、1ページ目記載の連絡先にご一報いただければ、調査結果のコピーまたはPDFを、ご回答者の皆様に送らせていただきます。